

縄南中通信



平成28年 7月 4日 発行

2016年度 第4号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校

校長 日比野功

縄手南小中一貫施設分離型義務教育学校（平成31年度開校予定）教育理念

「縄南道」による20才の成人式には

当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

「日本一」に挑戦した体育祭！ ～縄手南中学生の全力疾走に大きな拍手～

6月22日（水）、体育祭が種目を厳選したプログラムで開催されました。本来の開催日は6月19日（日）でありましたが雨のために順延、また予備日の21日（火）もグランドコンディション不良のため順延となり、3回目の仕切り直しとなりました。こうした状態になると生徒のモチベーションの維持がかなり高いハードルとなります。しかしながら普段から「縄南道」の精神により鍛えてきた「意識」の在り方が実って、再三の順延にもかかわらず縄手南中学校生徒は全力疾走に挑んでいました。この「全力疾走」「一生懸命」に対して当日は平日にも関わらず多くの方々から大きな拍手を頂くことができました。

縄手南中学校は「日本一」を目ざす学校でありますから、当然この体育祭も「日本一」の体育祭として挑戦しています。体育祭を通じてどのようなことを話し、どのような取り組みを行ったのかということ再度振り返って、生徒諸君も、また保護者や地域の皆様も含めて「縄南道」の目ざす方向を確認する機会にさせていただけたらと思います。

まず、5月に実施された第1回定期テスト後（3年生修学旅行前）の全校集会で、「1年生が入学してきて約1ヵ月半が過ぎました。これから体育祭までの1ヵ月が大きな節目となります。」ということをお伝えしました。新しい学年にも慣れ、定期テストも終わり、季節はだんだんと梅雨に近づき、かなり気温が高く暑い日が続いたり、雨でじめじめした日が続いたり、と、とかく集中力が切れてしまいがちな時期だからです。自分自身で、「まあ今日はいいか」「これくらいでいいか」などと集中力を切らせていると、1ヵ月後に振り返ってみると結構な割合で集中力が切れてしまっていたという結果になりかねないからです。「勝因」は「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」、「敗因」は「いい加減」「適当」「だいたい」ですから、体育祭までの1ヵ月間は節目となる時間であるということをしつかりと意識する必要があると伝えました。実際、この1ヵ月間のモチベーションで体育祭のレベルが決まります。

そして、当初の予定であった6月19日（日）の前日、全校集会でいろいろな先生からの連絡や指示がありました。その時に伝えた内容は、「この体育祭のために、PTAの方々や校区校外指導協議会をはじめとする多くの方々、みんなの知らないところで多くの準備や打ち合わせをいただいています。また、体育委員や実行委員、陸上部の生徒たちもたくさんの方々のことを準備してくれています。その方々の思いに応えるのは『感謝の気持ち』と『全力疾走』です。また、自分が出場する競技だけを頑張ればいいのかではありません。他の人が一生懸命に頑張っていることに対する応援、他の学年が頑張っていることへの応援等、すべてが体育祭です。」ということでした。さらに、

「ユニフォームの袖を通した時から試合は始まっている」の如く、「当日の朝、家でゼッケンをついた体操服に袖を通した時から体育祭は始まっているので、教室から椅子を持ってグラウンドに出てくる時の在り方も大切にしてもらいたい。」そして、天気が雨天になりそうな予報でしたので、「勝手に中止と決めるものではない。『ない』と言われるまではある！」と伝えて全員で集中力を切らさないように伝えました。

しかしながら19日(日)の当日は残念ながら雨で、予備日である21日(火)に順延となりました。その時は、「順延と決めたからには、たとえこの先、晴れてきたとしても『やれたのに』とか『やりたい』というマイナス発言はモチベーションを維持することの阻害要因になるので、いっさいそうしたことは発言せず、火曜日に全力でプレーできるように備えること。」と伝えました。火曜日に、もし自分が全力でできなかった言い訳を順延のせいにするようなことがあれば、それは論外だからです。

ところが火曜日も順延となり、翌22日(水)に種目を厳選したプログラムで開催することになりました。2度目の順延となった火曜日の全校集会では、日曜日も火曜日も朝のとても早い時間から、仕事の都合や時間のやり繰りをして縄手南中学校の体育祭をサポートして下さっているPTAの方々や地域の方々のことも再度伝えました。

そして22日(水)、第30回体育祭が開催され、「縄南道」に学ぶ生徒の全力疾走が始まりました。自分が出場する競技は勿論、他の生徒や他の学年の生徒が一生懸命頑張る姿に声援を送り、係りの仕事をしている生徒も誰一人としてだらだらする様子はなく、しっかりと機敏に仕事をこなしている姿、ラジオ体操、3年生のチアダンス・集団行動・ソーラン節、そして体育委員のしっかりとした号令、しっかりと指先まで伸びた基準の生徒たちの模範体操にも大きな評価を頂きました。

「日本一」の体育祭を目ざした取り組み、そして本番においてどうなれば「日本一」なのかということに関しては、日本中で体育祭が行われていますが、「今、自分の出した声が」「今、自分がとった行動が」「今、自分が行った全力疾走が」、絶対に誰にも負けないものであったかどうかを自分自身に問うて見ればわかることです。縄手南中学校は「日本一」を目ざす学校で、生徒諸君はその主役であることをこれからもしっかりと心に刻んでおいてください。

ところがこんなこともありました・・・

体育祭や卒業式の後、「打ち上げ」と称して子どもたちだけでどこかに一同に集まって騒ぐといった行為があるそうです。当然、お家の方々と食事に行ったり、知り合いの方に連れていっていただいたりするのは別として、子どもたちで「打ち上げ」などするべきではないことを学校では指導しています。打ち上げはそもそも大人のすること、子どもがすることではないと指導しています。

体育祭後、「そちらの学校では打ち上げを許しているのか」という苦情がありましたが、当然、学校で認めているはずはありませんし、前述のような指導をしています。もしそのような行為が行われているならば、みんなが全力で頑張った体育祭の成功も台無しになってしまいます。そのような体育祭が日本一に相応しいのでしょうか。このことが事実かどうかはわかりませんが、「縄南道」に学ぶ生徒諸君は、自分の取る行動の重みをしっかりと考える機会としてください。

学校では今後もしっかりとした指導を続けていく次第ですので、どうかご家庭でも学校の指導方針にご理解いただき、ご協力をお願い致します。

クラブ等の主な記録

剣道 第2回大宮司杯争奪剣道優勝大会 男子団体 3位、 女子団体 3位

大阪中体連剣道部強化選手認定 中山百恵(3年)

英語暗唱大会 代表 松本舞(3年)「Mottainai」